

白藍塾オリジナル

2022入試小論文分析&解答のヒント

2022年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・環境情報学部

昨年度に続いて、今年度もかなり変則的な出題になっている。「未来からの留学生派遣制度」という架空の設定を与えて、やはり自分で問題そのものを発見し、解決させるというもの。純粋に問題発見・解決能力を試すという点で、今回もきわめてSFCらしい問題と言える。

問1は、昨年度と同様、小手調べのような問題。参考データを与えて、「2021年に日本国内で購入されたシャープペンシルの本数」を推定し、またその根拠を説明するというものだ。本数は、シャープペンシルをよく使う年齢や学校区分を考え、一年に何本くらい購入するかを想定し、それを年齢別人口や学校数に掛け合わせたものを合計すればよい。

とはいえ、問われているのは数値自体よりも、それにデータを使ってきちんと根拠付けができていかどうか、ということだ。配点は高くないはずなので、それほど時間をかける必要はないだろう。

問2は、「未来からの留学生」として2年前の2020年4月から2年間を過ごし、その間に自分が解決したい問題を挙げ、その解決方法や意義などを考えるというもの。2020年4月～2022年4月という期間を考えると、常識的には、やはり新型コロナウイルスのパンデミックに関連する問題を取り上げざるをえないだろう。もちろん、設問にそうした縛りが無い以上、他の問題を取り上げることも可能だが、よほどその問題について知識があって鋭い意見を書く自信があるのでなければ、素直にコロナ関連の問題を取り上げるほうがよいはずだ。

実際にどんな問題を取り上げるかだが、やはり自分の体験を活かして、コロナ禍における学校での学びについて考えるのが最も書きやすいだろう。この2年間は、学校教育でも様々な試行錯誤が行われたが、今振り返ってみて、「自分だったらこうする」「この問題には、こういう解決方法があったはず」というアイデアがあるはずだ。それをできるだけ具体的に考えてみる。

もちろん、もっと広く、政府の感染症対策、東京オリンピック、医療崩壊、職場のオンライン化など、さまざまなトピックが考えられるので、自分にとって考えやすい問題を選ぶとよい。

書き方としては、問2-2と問2-3は2部構成のA型を使ってまとめられる。問2-4については、箇条書きのような書き方でよいので、できるだけ簡潔に書くとよいだろう。

設問文の中に、「他の人と異なる視点や創造的なアイデアなどを高く評価します」といったフレーズ

があるが、当然ながら、そんな独創的な視点やアイデアを誰もが持てるわけではないし、たとえ持っても、短い試験時間の中でそれを発揮するのは至難の業だ。変則的な出題形式に惑わされず、自分にできる範囲で、落ち着いて取り組むことが大切だ。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://hakuranjuku.co.jp>